

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	メリーライフ株式会社 グループホーム里の家千歳 コスモス	評価実施年月日	平成19年5月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	近江 那奈	記録年月日	平成19年5月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>開設時より事業所独自の理念を掲げており、現在もその理念の達成に向け取り組み継続中である。グループホームが個人様の家と感ぜられる事や、地域に根ざす事を目標とし取組んでいる。</p>	○	<p>理念は法人の運営方針にも深く繋がる部分である為、その理解と推進には常々指導教育を徹底しているが、入居されている全ての方の暮らしがより良いものとなるよう、今後も更にサービスの充実を図っていく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる。</p> <p>管理者は日頃から理念や方針・目標をスタッフに説明している。朝の申し送り等で利根の読み合わせをしており、実践に向けてスタッフはそれぞれ取組んでいる。</p>	○	<p>定期的にスタッフで話し合い、理念の実現に繋げて行けるよう努力する。また、必要に応じてユニット会議などでも職員個別指導教育を実践していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる。</p> <p>地域やご家族様にどの程度理解され浸透しているかの判断は困難であるが、ホーム内の見易い位置への掲示やパンフレットへの記載及び運営推進会議内でもその内容に触れる事で理解が深まるよう努めている。</p>	○	<p>地域の方に過度の宣伝行為と受取られない程度で定期的な町内の集まり等で説明を行っている。また、ホーム内の見学案内の際にも理念について触れ、ホームの目的や機能についても説明を行っている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>日頃から挨拶を交わしたり、野菜や花を頂いたり一般的な近所付き合いを行い、地域の方々との触れ合いを大切にしている。</p>	○	<p>地域の方も参加できる行事を立案する等、気軽に立ち寄れる雰囲気作りをして行く。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域のお祭りや幼稚園・小学校の行事、市民文化祭への参加など、日頃から関係を深める働きかけを行なっている。また、管理者は自治会の集まりに参加している。</p>	○	<p>散歩は出かけ、挨拶を交わしたり、地域の行事へのより積極的な参加を心がけ交流を深めていく。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる。</p> <p>地域の様々な集まりや催しに参加し認知症について話しをしている。また、地域の方が集まれる機会としホームで夏祭り等企画実施しており、それらの集まりの中から事業所として取組める事の聞き取りにも努めている。</p>	○	<p>現状では事業所内の質向上と環境整備を推進する事が当面の目標としているが、これらについての更なる向上が地域貢献に直接繋がると考え今後も意欲的に取組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義を理解し、常に評価結果についても改善向上意識が持てるよう各種会議でも評価項目を取り上げ改善検討が成されている。</p>	<p>○</p> <p>全体会議等でも各ホームの比較等を行っており、切磋琢磨出来る様情報交換の場を設けている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。グループホーム全般の役割や細かな取組みに至るまで理解が深まりつつある。</p>	<p>○</p> <p>話し合いの中で挙がった様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村との連携について、本部職員が担当窓口として主な働きかけを行っており、その時々により事業所管理者等も行き来している。</p>	<p>○</p> <p>今後も更なるサービス向上について市町村より意見を伺い、それらの意見を柔軟に受取り活かして行きたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在制度を利用されている方はいないが、制度の内容等について職員理解を深める努力はしている。内部研修及び外部研修でその内容周知にも努めている。</p>	<p>○</p> <p>今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>本部及び管理者より高齢者虐待の定義やその内容詳細について各会議で都度説明行っており、入居者様が外泊等された後にも身体確認等行う事で、ホーム内外での虐待防止に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には時間を掛け各項目について説明しているが、契約前にも不安や疑問について解消出来る様対応行っている。入居申込みを受ける前に必ずホーム内見学案内も実施している。</p>	<p>○</p> <p>利用される事での利点は勿論であるが、リスクについても十分説明し納得された上での入居を推進していく。グループホームの役割や機能について更に深く説明する事で理解を深めて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。	○	現在苦情と捉えられる訴えはないが、今後継続して訴えを汲み取る姿勢で対応を行っていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時などの情報提供は勿論、毎月里の家だよりを発行し、日常や行事の様子を写真と共に伝えている。金銭仮についても使用の都度、ご家族様へ報告し領収書やレシートを毎月発送し、その出納を明確にしている。	○	今後も様々な機会を見つけ、ご家族様とのコミュニケーション・交流を大切にし、定期的及び個々に合わせた報告をして行く。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設ける事で、話しづらい事への配慮を行っている。また、相談窓口への電話回線も設けており、受入体制を整えている。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会事等に聞かれた訴えについても記録として残し対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	特に入居時には管理者及び計画作成担当者が勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要な範囲内でシフトの組み換えを行う事もある。しかし、普段日常については全職員が同一の対応が取れる様指導・教育している為、勤務変更はない。	○	現状としては入居者様の状態に合わせた職員配置は難しいと考える。しかし全職員が可能な限り、同一の対応を行える様ケアの質を向上させる努力をしている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的に職員異動は極力無いよう勤務調整行っており、馴染みの関係作りの妨げとならないよう配慮も行っている。	○	職員の急病等の止むを得ない場合に限り一時的な異動はあるが、普段よりユニット間の交流も盛んである事から、ホーム内全ての職員と入居者様が顔馴染みの関係を築けている。今後ホーム全体の交流機会を持つていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修及び外部研修の受講推進を行っており、勤務上受講が出来なかった職員についても後日資料の配布等で、内容周知が成されている。また、本部職員による助言指導等も随時行なわれている。</p>	○	<p>職員の指導教育は基本的には管理者、計画作成担当者を主としているが、方針の理解や制度的な事項については、本部職員からも会議等を通じ常時職員周知が出来ている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市町村が主催する管理者会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会等に積極的に参加する事で同業者との意見交換等が行われている。</p>	○	<p>守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>互助会の設置を行い忘年会や新年会等の実施を行っているが、職員のストレス軽減等についてはまだ不十分である。また、ハード面については建物構造上、職員がくつろげる空間の確保が難しく、それに伴う必要物品についても検討されている。</p>	○	<p>今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていくよう努めている。スペース的な問題は理解出来る為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努めていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、それ以外の日常業務内での取組みや個々の成長過程等も確認し、能力を伸ばせるよう個別指導教育も行っている。</p>	○	<p>職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前の面談及び見学案内の際に不安な事や希望についても可能な限り聞取るよう努めており、本人様以外の親族の方にも情報提供依頼をし、本人様との関係が早期に身近なものと感じられるよう努めている。</p>	○	<p>家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞取りには困難を極める事もあるが、入居されてから密に関わりを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれており、その後の本人様の生活や職員対応について事業所側に任せて頂けている。また、些細と思われる出来事についても都度連絡する事で更なる安心感に繋げる努力をしている。</p>	○	<p>初期に築けた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様とご家族様の希望が一致しない場合もあるが、その際は職員も含めた三者間で話し合いを持つよう努めている。支援の優先度についてもケアプラン上でも説明行い、専門的な見地からもご家族様にアドバイスしながら決定している。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人様が安心感を得られる対応や環境について、本人様及びご家族様、諸関係者様より情報収集行い、早期に馴染みの関係が築けるよう努めている。本人様が納得されるまでに時間が掛かるケースもあるが、ご家族様にも外泊や外出等のご協力を頂き対応している。	○	本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。新たな情報を知り得た場合の迅速な対応について今後も継続し実践していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事参加や入居者様の得意な事等を教えてもらったり、共に楽しんだり助けてもらったりする関係を築いている。また、一緒に過しながら喜怒哀楽を共にし支えあっている。	○	今後もいろいろな事に働きかけ、もっと入居者様から教えられたり、助けてもらったり、支えあう関係を築いていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	事業所側の対応として細かな情報の伝達をご家族様に行う対応を継続しているが、各ご家庭の事情もあり全てが円満であるとは言えない。しかし、多種行事の呼掛け等で本人様と関わり合える機会の提供にも努める事で、関係が深まったケースもある。	○	協力的なご家族様とそうではない方との開きはあるが、長く生活を共にし密な連絡体制を継続する事で少しでもケアに関心を抱いて頂けるよう努めていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	事業所側は第三者という立場であり、深く踏み込めない事情も多々あるが、間接的にも本人様とご家族様との距離が縮まるよう取組みを行っている。	○	ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様の協力を得ながら途切れないよう面会や外出を行っている。	○	馴染みの人や場所の現状等についてご家族様より入居者様に伝えて頂ける等、日常的な会話の中に盛り込まれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の人間関係やそれぞれの認知度に合わせ、入居者様同士助け合いや支え合いが出来る様に支援して行く。	○	必要に応じ職員が間に入る事で、入居者様同士の交流や気持ちの支え合いが出来るよう支援したり、世話役の入居者様へさり気なく場面作りを提供していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のコミュニケーションや何気ない会話の中から何をしたいのか、何を望んでいるのか等入居者様の思いや意向の把握に努めている。また、信頼関係を大切にし、思いや意向を入居者様から伝えやすい様な環境作りにも努めている。	○	自分の思い等、伝えられない方の把握にはその方の表情やサインから汲み取り、その方に合った対応をして行く。また、職員間での情報交換も大切にしていき、今後はアンケート等を取り入れいろいろな把握に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメント・バックグラウンドの把握に努め、不足している所は入居者様・ご家族様より情報収集し、その方に合った暮らしや環境作りにも努め、生活歴や経験を知り日常的にケアに活かしている。	○	今後も入居者様・ご家族様から知り得た情報をスタッフ間で共有し、なじみの暮らしに近づけ安心して暮らせる様な環境を作っていく。また、ご家族様とのコミュニケーションも大切にいろいろな情報交換もして行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の生活の中で、今どこにいて何をしているのか、どのようにして過すのが好きなのか等職員一人一人が把握しており、出来る事・出来ない事を考えながらその方に合った対応をしている。	○	今後も表情やサイン等から心身状態や出来る事、出来ない事の把握に努めていく。また、その方の一日の流れ・生活リズムに合ったケアをしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日行なっている会議、日頃から入居者様の状況など話し合っており、それらを取り入れている。また、日頃から入居者様・ご家族様から意見や希望を聞くように心掛けている。	○	今後も会議だけでなく、常日頃から情報交換や意見の交換をして行く。また、ご家族様の意見や希望を積極的に聞くようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間が終了する際には、見直し・評価を行なっている。また、状態の変化や問題が発生した時には随時話し合いの場をもち見直しをしている。	○	入居者様の変化・特徴を見逃さず、日々の介護に反映で出来るような見直しをして行く。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ケアプランに基づいた記録を書いており、入居者様それぞれの変化や特徴も具体的に記録されており、介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の様子や変化・特徴を見逃さず、より具体的に個別記録をして行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様及びご家族様の希望を聞き取り、可能な限り希望に沿ったサービス提供と支援を行うよう努めている。その時々々の意向の変化に迅速に気付けるよう関りを深めている。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域ボランティアの方による行事や消防署による避難訓練等で協力を得られている。また、近隣学校とも関係が深まっており、互いの協力体制が築けてきている。	○	開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、地域の方々からの呼掛けや、事業所側からのお誘いについて円滑な交流が行なわれるようになっている。入居者様意向の実現も地域の方々のご協力で実現する頻度も増加している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネージャーに相談する機会はないが、医療機関等のソーシャルワーカーに相談する事は多々ある。本人様やご家族様の意向を十分聞き取った上、他サービス活用について検討するよう努めている。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じ、包括支援センターの方からのアドバイス等受けられるようになってきている。具体的内容の話しになるケースはまだ少ないが、必要性に応じて協働していく考えである。	○	具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者様・ご家族様の希望がある場合は、その希望の医療機関を受診し、それ以外は協力医療機関を受診し希望に添った適切な医療を受けられるよう支援している。	○	今後も入居者様、ご家族様の希望を取入れていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関を確保しており、医師・看護師は認知症への理解がある為適切な指示・助言をもらえる体制が出来ており、受診時に様々な配慮をしてくれている。	○	今後も現在の関係を継続していけるよう協力し、専門的なアドバイスをもらい、ケアに活かしていく。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の看護師に訪問診療、受診の際に相談しアドバイスを受ける事で、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	今後も気軽に相談できる関係を継続し、連携を図っていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、入居者様の日常生活状況やケアについて情報提供や相談をし、また早期退院の為の話し合いや退院後の経過観察についてもアドバイスを受け、連携をしている。	○	今後も早期退院に向けた連携を維持継続していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアについて事前にご家族様及び本人様意向を確認する事に努めているが、時として思いの相違は伺える。その場合についても専門的な立場から助言等させて頂く事で現在まで円滑にターミナルについてのご理解等が得られている。	○	今後、更にターミナルケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズにターミナルケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームケア全般において職員個々の能力差を可能な限り縮める為、日々の業務内及び各種会議や研修の場を利用し知識、技術の共有が出来る様努めている。また、連絡事項等も正確に伝わるよう確認の徹底を図っている。	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入退居時の精神的な不安やストレスを軽減できるように、本人様に関わる関係者と充分情報交換を行い、サポートしている。	○	今後もダメージを防止する為に、ご家族様や本人様に関わる関係者と連携し、支援して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様一人一人の人格やプライドを尊重し、一人一人の状況に合わせた声掛けを行い、誇りやプライドを尊重した対応を心がけている。また、周囲に知られる必要がない事にはその方だけに伝わる・分かる様な対応をしている。	○	排泄の声掛けについても入居者様に合わせた声掛け対応を行なっているが、事故やヒヤリハットがあった時もさり気なく静かな対応が出来るよう努めていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日頃からの何気ない会話の中で、何をしたいのか等さり気なく希望を聞き出したりしており、それを行事やレクに活かしている。また、その入居者様の状況に合わせ、自己決定できるような声掛けをしている。(洋服や食事を選んで頂く)	○	自分の希望の表出しが出来ない入居者様へは、表情やサインを見逃さない様努めているが、今後も思いや希望を引き出せるような働き掛けをしていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人一人がどのように過したいか職員が把握しており、その方のペースを大切にした対応を心掛けている。	○	今後も入居者様がどのように過したいか・そのように過したらその方らしいのかを把握し、またご家族様からも情報提供して頂き、その方らしい暮らしが出来る様支援して行ける様努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者様一人一人の個性や好みを大切に、その人に合ったお洒落の支援をしている。また、理容内容やお店についても一人一人の希望に合わせたものになっている。	○	入居者様一人一人の好みを把握し、能力や状況に合わせてその方らしいお洒落の支援をしていける様努めていく。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	入居者様一人一人の好みを把握し、献立作り・買い物の前には入居者様の希望を取り入れており、可能な限り準備や片付け等を行なって頂いている。	○	食事の際の声掛けや食べやすい環境作りの工夫をしていき、また出来るだけ買い物等も一緒に行って頂ける様支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物・おやつについては、好みの物を提供しており、飲酒については入居者様の健康状態に留意しながら行事等、年に数回は提供している。煙草については、ホームの方針として全面禁煙となっており入居者様・ご家族様に説明している。	○	今後も好みの物を一人一人の状況に合わせて日常的に楽しめる様支援している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者様の排泄パターン(排泄チェック)を把握し、それに基づき声掛けやトイレ誘導を行なっている。	○	入居者様一人一人に合わせ、トイレで排泄や排泄の自立に向けた支援を今後も続けていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2~3回は入浴しており、時間帯(午前か午後か)や長さ等入居者様のご希望に添うように努めている。	○	入居者様それぞれの希望に合わせ、くつろいだ入浴が出来る様に支援して行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、それに合わせた活動を支援し安眠できる様努めている。また、入居者様それぞれの精神状態や疲労の程度に応じ、さり気なく居室へ誘導し休めるように支援している。	○	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、安眠へ繋げられる様努める。また、開放されている空間が多いので落ち着く事の出来る場所や環境を作っていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様一人一人の得意な事や趣味・楽しみ事・生活暦を把握し、家事参加や役割など日々場面作り・気晴らしの支援をしている。	○	楽しみや役割を更に引き出してける様に支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様をご自分でお金を持つ事の大切さを職員が理解しており、管理可能な方はその方の希望や力量にあわせて支援している。	○	好きな時に好きな物を買ったり、ご自分で支払い出来る方にはご自分で支払いして頂ける様支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かい時期は散歩や近所のスーパーへ買い物に出かけ、また地域の行事等に積極的に参加しホームに閉じこまらない工夫をしている。	○	冬場は比較的ホームに閉じこもりがちになる為、安全に配慮しながら出来るだけ外出の機会を作る様努める。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人一人が行ってみたい所や希望を把握し、出かけられるような機会を作る様努めている。	○	ご家族様との協力、スタッフ間の連携による体制作りを行い外出支援に努め、ご家族様参加の行事・小旅行等を取り入れていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は能力に応じて声掛けや介助を行っており、日常的に利用出来る様にプライバシーに配慮し支援している。	○	今後も支援が必要な時には介助するが、プライバシーへの配慮を欠かさない。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様や馴染みの方が気軽に訪問できており、居室やホールなどでゆっくりと過ごされている。職員も交えて過す場面もあり。	○	情報交換や近況報告などを通じ、更なる信頼関係の向上を目指し、ご家族様が居心地良く過ごせるよう名雰囲気を作っていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営及び全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアの実践をしている。	○	今後も身体拘束のないケアを実践して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入口はやむを得ず施錠している。ご家族様・入居者様に対し、理由は説明し了承を得ている。今後、職員全体が外出の際の危機感や、その他の安全確保についての認識を更に深める事で、施錠緩和に努めたい。	○	入居者様やご家族様に心理的の圧迫をもたらさない様に、鍵が目立たない様にカーテンやシールで隠す工夫をしている。時間帯によっては見守りを強化する事で鍵を開けておける環境作りに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホールには必ず職員がいるようにしている。記録や何か作業を行なう際も、入居者様のそばで行い入居者様の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○	ホールを離れる際等、職員同士必ず声を掛け合いホールに職員が居ないことがないようにしていく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬・洗剤・刃物等の注意の必要な物品については、管理方法を明確に取り決めており、職員がそれを把握・理解し実行している。個人の持ち物については、一人一人の状態に合わせて管理方法を決め対応している。(爪切り・ハサミ・食品等)	○	今後も一人一人に応じた対応をし、安全を確保していく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃から一人一人の状態に応じ、起こりうる事故を想定した未然に防ぐ為の対応を行なっている。また、事故が起きた際には事故報告書・ヒヤリハット報告書その都度記入し、再発防止・改善策についての話し合いを行いサービスの改善につなげている。	○	日頃から職員同士話し合いを行い、危機意識を高める。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に救命講習や避難訓練を実施している。また、緊急時の対応マニュアルがあり、全職員がその内容を熟知している。	○	日頃から常に確認できる場所に配置し、内容を熟知するようになっていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防訓練の実施により災害対策について全職員が周知している。また、訓練内容についても都度状況を変え様々なケースを想定し実施している。	○	近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきたと感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養っていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時及び都度の連絡の中でもリスクについても説明を行っている。自立支援を推進していく上でグループホームの機能を理解して頂けるよう努めており、現状としてご理解は得られている。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックは、日頃から入居者様一人一人の身体状態の変化や異常サインに注意し、早期発見・早期対応をしている。	○	全ての職員が日頃から入居者様の身体状態を把握しており、職員間で申し送りを徹底しその変化やサインを記録に残している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者各々人様の服薬内容について全職員が把握している。研修課題としてもこの内容に取組み、全職員が報告書として個別の薬内容について確認しており、その報告書を自らの資料としている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一対応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便状況を確認し、便秘薬服用者は日々の状況に合わせ、薬の調整をし日々の食事では食物繊維を多く取り入れ、予防を改善に努めている。	○	今後は便秘の原因やその及ぼす影響をより理解し、予防と対応の為の働きかけ等に取り組んでいく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	介助が必要な方に対しては、毎食後の口腔ケアを行い口腔内チェック等を行っているが、自己管理が出来ている方に関してはプライドを考慮した上での確認をさせて頂いている。	○	自力で口腔ケア等を行なっている方へは、その方の力を引き出しながらもさり気ない声掛けや、さり気ないケアをして行く必要がある。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人に合わせた食べる量や栄養バランスを考えた食事提供をしており、栄養摂取状況や水分量を把握し、一人一人の状態や力に応じた支援をしている。	○	今後も栄養摂取状況を把握し、日々の食事提供でバランスのとれる食事・水分確保に努めていく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが作成されており、実行している。また、入居者様は毎年インフルエンザの予防接種を受けて頂いている。	○	今後も情報の収集・分析を行い、スタッフ間へ周知・徹底していく。また、研修や勉強会にも積極的に参加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、布巾・まな板等の漂白・除菌を行なっている。食材についてはこまめに買い物に行き、新鮮で安全な食材の使用を管理に努めている。	○	今後も生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに草花を植えたり、畑を作ったりと家庭的な雰囲気作りをしている。	○	今後も誰でも訪ねて来られる様に、親しみやすい雰囲気を大切に行なっていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール内にお花や植木を置いたり、ポスター等を貼ったりと家庭的な雰囲気作りをしている。また、入居者様の馴染みの物や年代に合わせた物を取り入れ、居心地良く過ごせる様工夫している。また、音の大きさ・光の強さに配慮している。	○	今後も生活感や季節感を取り入れて、居心地良く家庭的な雰囲気作りをしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様が一人だけくつろげたり、入居者様同士で過ごせる様ソファやテーブルの配置に気をつけている。	○	入居者様一人一人に合わせた居場所作りをし、安心して過せるような環境作りを行なっていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に本人様やご家族様と相談しながら、入居者様の馴染みの物やお好きな物が置かれたり、使い慣れたものを持参して頂き、本人様が居心地よく過せる様工夫をしている。	○	入居者様の生活スタイルにあわせ、その方らしく安心して過せるような環境作りを今後も行なっていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いや空気に気をつけ、換気も適度に行なっている。ホール内の湿度調整は出来ているが、居室内には差が見られるので、入居者様の状況に応じてこまめに行なっている。	○	今後も臭いについて、汚物やゴミの処理に気をつける。また、居室内の温度・湿度に差があるので注意して行く。(加湿器を置く)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	現在事業所内には必要箇所の手摺り等が設置されており安全な環境であると言えるが、身体介助の必要性がある方が多い為、設備を使用するより職員対応によるものが殆どである。	○	今後、入居者様個々の身体状況や認知力に合わせた環境整備に努め、入居者様が自身の能力を活かして生活出来る環境を目指したい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を招くような状態やそのような原因となりうるものを把握し、そのような状態を放置せず対応している。	○	今後も一人一人の分かる力を活かし、自立して暮らせる様に工夫して行く。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームに畑があり、入居者様・スタッフで水まきや収穫を行い楽しんでいる。また、外回りにお花を植え散歩を楽しむ工夫をしている。	○	今後も建物の外回りや空間を活かせる様工夫して行く。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ <ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ <ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)